

研究・調査報告書

報告書番号	担当
285	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Gender differences in friends' influences on adolescent drinking: a genetic epidemiological study. 友人が青年期飲酒におよぼす影響の性差：遺伝疫学研究	
執筆者	
Dick DM, Pagan JL, Holliday C, Viken R, Pulkkinen L, Kaprio J, Rose RJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Dec;31(12):2012-9.	
キーワード	
青年期飲酒、友人、同等者 (peer)、 遺伝の影響、同等者選択	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>14歳の時点での、友人グループ特性と本人のアルコール使用との関連について研究するために、地域住民を基にした双子研究のデータを使用した。対象青年自身の性別および対象青年の友人の性別の割合とに特に着目した。</p> <p>方法：</p> <p>(1)友人特性とアルコール使用との関連との大きさおよび、本人の性別と友人との性別との相互作用を検討するために上記疫学調査の抽出対象者全てを解析した</p> <p>(2)対象者とその友人とにおいて飲酒行動が似通っていることをどの程度、遺伝的要因あるいは環境的要因に帰することができるかを検討するためデータのもつ双子構造を使用した。</p> <p>結果：</p> <p>友人の飲酒・喫煙・非行行動が本人のアルコール使用とより強く関連している傾向は男性よりも女性のほうが、同性の友人のみをもつ青年よりも異性の友人をもつ青年のほうが強くみられた。女性においては、友人の飲酒行動との関連から、アルコール使用における遺伝的要因が関与している中等度の証拠が示唆され、同等者 (peer) 選択がおこっていると考えられた。しかし、男性では遺伝的要因の影響を示す証拠は認められなかった。男女ともに、青年期飲酒と友人の飲酒との相関の多くは、両者が環境的要因を共有していることで説明できた。</p> <p>結論：</p> <p>本人および友人の性別とによって青年期飲酒と友人の飲酒行動との関連は修飾を受ける。すなわち本人が女性である場合、および異性の友人を持つ場合は、友人の影響をより強く受けやすいと思われる。遺伝学的な解析からは、本人と友人とのアルコール使用に関する相似性は、少なくとも部分的には環境的要因が中間媒介している。</p>	